

左近山中だより

令和2年10月26日
横浜市立左近山中学校
校長 福田 有志
No. 6

「真ん中」

副校長 羽山 悟

金木犀（きんもくせい）がとても健やかに香り、色まばらな落葉も日々多くなってきている季節となりました。食欲の秋でもあります。秋刀魚（さんま）、烏賊（イカ）が不漁で少し寂しさを感じる反面、茸（きのこ）類は豊作だそうで、秋をほんの少しでも感じられそうです。

さて、学校では、コロナ禍の中、昨年度までの内容を変更した体育祭を午前中で実施することができました。体育祭は最高の天気と気温の中、生徒代表の開会宣言や選手宣誓のはつらつとした声で開会式が行われました。普通に実施できることのありがたさや生徒の熱のこもった競技を見ていると涙が出るほどうれしく感じられました。このような時だからこそ、いつもより新鮮な気持ちで、いつもと違った競技の取組に熱くなり、それぞれの記憶や心に特に多く刻まれたことと思います。そして、体育祭を前向きに大切な経験として捉えてくれたことと信じています。

文化祭もまた、生徒も教職員もすべて創意工夫の毎日。発表準備もいよいよ終盤。合唱や演技の発表内容や方法、形式も、輝きのある新しい時代のスタートとなるよう期待しています。

一年間の境目となる前期修了、そして、後期が始まりました。今が今年度の「真ん中」にあたっていると言えます。「真ん中」には、距離、場所、順序などで、ちょうど中央にあたる言葉です。だから、1年生は、まさに学年の「真ん中」、2年生は、中学生としての「真ん中」にあたります。私はもう一つこの「真ん中」に付け加えたいものがあります。ちょうど3年生にとって大切な「真ん中」です。どんな大人になりたいか、どのような生き方をしたいかなど、自分自身の大切な考えの「真ん中」を

考える時期ということです。この「真ん中」をしっかりと見つめ、勇気をもって決断し、前向きに考えられる日々を送ってほしいと思います。

なかなかコロナ禍の中、やりたくてもできないことや思いが多いことかと思いますが、保護者、地域の皆さまには、今後とも左近山中学校の生徒へ温かい目での見守り、声かけして頂けたらと思います。よろしく申し上げます。



文化祭にむけて

前期期末試験も終わり、本年度も文化祭のシーズンがやってきました。本年度は武道場での展示発表が10月30日（金）
体育館でのステージ発表が11月2日（月）
にそれぞれ行われます。

文化祭に向け、各クラス、リーダーたちを中心に準備を進めています。本年度も各クラスの創意工夫が光るステージ発表を企画しているようです。また1年生では今年度から合唱への取り組みをはじめ、最初は戸惑う様子が見られた生徒たちも最近では豊かかつ美しい声で歌うことができるようになってきました。本番まであと1週間となりました。今までの成果が存分に発揮された展示・発表を創り上げてほしいと思います。

当日はコロナ感染予防の関係でたいへん残念ながら来賓の皆様、保護者の皆様のご見学はできませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

（職員文化祭実行委員長）



第48回体育祭

善戦全笑

～笑う門には福来る～



今年初めての全校生徒で行う行事が無事に終了いたしました。今年は様々なタイミングで使われる“例年と違い”という枕詞がこの体育祭にもつき、内容の縮小などがなされました。昨年までの体育祭を知っている、2・3年生は戸惑いや不安もあったことと思いますが、3年生が先頭に立ち練習や本番を例年以上に素晴らしいものにしてくれました。初めての試みが多かった体育祭でしたが、それが逆に印象に残る“例年と違う”ものになったと感じました。喜びや、悔しさなど様々な感情が見られましたが、それだけみんなが全力で取り組み、楽しんだ結果だと思います。全校が協力して行う今年初の行事は生徒1人ひとりの一生懸命な姿勢によって大成功を収めることができました。

（職員体育祭実行委員長）

